

中核市発 持続可能な地域社会を創造する「地域共創人」の育成

松江東高等学校のめざす学校像と教育目標

目指す学校像 生徒の持つ可能性の拡充に、師弟同行で挑戦する学校

育てたい生徒像 「自分らしいライフデザインの実現をめざす生徒(自立した18歳となる)」

「持続可能な社会を創造する地域共創人」

教育目標 ①人とつながって生きる力 ②自己の未来を切り拓いていく力 ③地域社会の今と未来に関わる力

「地域共創人」とは？

地域にある多様な価値<ひと・しごと・こと(歴史・文化・自然)>を探究する中で、持続可能な地域社会を、他者と協働で創造しながら、自己実現を図る人

地域共創人育成を通じた期待効果

大学や地域との連携強化 → 地域の企業や保護者の意識改革 / しまね(まつえ)マインドの形成 → 人材の定着や環流、関係人口の増加

「地域共創人」育成に必要な力と育成のための教育プログラム (★で示しているものが教育プログラム)

- ①主体的学習者としての力 → 学力、思考力、語学力、主体性
★「教育課程実践モデル事業」の継承
- ②探究的学習力 → 探究心、課題解決能力、分析力、情報処理力、サイエンス活用力
★総合的な探究の時間の「地域共創人育成Project」、Ruby講座、学校設定科目「データサイエンス」の設置
- ③社会的自立力 (キャリア形成力) → コミュニケーション能力、人間関係構築力
★東京研修、しまね大交流会、卒業生との懇談会、「東高のCMを作ろう」、「ライフデザイン探究Ⅰ・Ⅱ」
- ④地域共創力 (価値創造力) → 地域への好奇心、価値を見つけ出す感性と力、創造力、起業家精神
★課題解決型学習(「地域の魅力と課題を知ろう(松江市・学園通り商店街)」、「MATSUE探究」)、ボランティア活動
- ⑤多文化協働力 → 自他文化の受容力、語学力
★多様な設定科目(「EAST国際交流」等)、近隣の学校・施設との交流

管理機関の支援

- (島根県教育委員会)
- ・高校魅力化コンソーシアム
- 先導モデル創出事業
- ・島根大学との高大連携協定によるパイロットモデル校

松江東高校地域共創人育成コンソーシアム

- ・研究開発ワーキンググループ
- ・カリキュラム開発等専門家
- ・地域協働学習実施支援員

研究開発のしかけ

- 1年次 地域に関心を持つ、地域の価値を知る
- 2年次 地域とつながり探究する、地域とともに挑戦する
- 3年次 地域の中から新しい価値を創造する

新たな取組

- ・カリキュラム開発 → 文理融合型の地域共創コース新設
- ・クラウドファンディング → 学校魅力化費用の確保
- ・松江市とタイアップした「中核市高校魅力化シンポジウム」の開催
- ・キャリアパスポートの導入
- ・課外活動の強化

共創する人々

- ・島根大学等との連携
- ・企業や自治体関係者との連携
- ・地域住民との連携
- ・卒業生(会)との連携
- ・近隣の学校や施設との連携
- ・保護者(PTA)との連携

評価方法

アンケート / EASTポートフォリオの活用 / ルーブリック評価

類型名	ふりがな	しまねけんきょういくいんかい	ふりがな	しまねけんりつまつえひがしこうとうがっこう
地域魅力化型	管理機関名	島根県教育委員会	学校名	島根県立松江東高等学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名, 代表者名

管理機関名：島根県教育委員会

代表者名：教育長 新田 英夫

(2) 学校名, 校長名, 研究を実施する学科

学校名：島根県立松江東高等学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：野々村 卓

2 取組内容

『中核市発 持続可能な社会を創造する「地域共創人」の育成』として、以下のⅠ～Ⅵの取組により、教育課程の研究開発を実施する。

Ⅰ 「地域共創人」を育成する3年間の体系的なカリキュラム研究（地域共創人材育成 Project）

総合的な探究の時間に、1年次には「地域に関心を持つ、地域の価値を知る」、2年次には「地域とつながり探究する、地域とともに挑戦する」、3年次には「地域の中から新しい価値を創造する」をテーマに掲げて体系的に実施する。成果発表を通して、保護者や地域の関係機関の意識も変える。

Ⅱ 文理融合型の教育を目指す2年次からの「地域共創コース」のカリキュラム研究

2年次、3年次に選択科目を利用した「地域共創コース」を設置し、「データサイエンス」、「EAST地域探究」といった特色ある科目のシラバスを開発する。「地域共創コース」の生徒は「社会と情報」の時間にIT関係者を講師としてRubyプログラミングを学ぶ。

Ⅲ 県指定で2年間実施した教育課程実践モデル事業の継承による主体的学習者育成研究

新学習指導要領で求められている、主体的・対話的で深い学びを実践するために必要な授業力向上を図るため、外部講師を招いて授業研究を兼ねた教員研修を実施する。その際全教科で研究授業を実施し公開する。

Ⅳ 教育を核とした多文化協働・地域共創研究

多文化協働に係る研究については、島根大学の留学生や松江市の国際交流員との交流活動のプログラムを開発する。その過程で、「EAST国際交流」等の学校設定科目のシラバスを作成する。地域共創研究については、地域住民との交流会の企画や、地域のボランティアへの参画などをおして取組の効果や方法論を研究する。

Ⅴ 持続可能な学校魅力化事業研究

本事業終了後も、カリキュラム開発等専門家や地域協働学習実施支援員の配置による「地域共創コース」等の取組が持続できるよう、卒業生会のネットワークを活かした自主財源の確保を研究する。

Ⅵ 単位制普通高校移行や新学習指導要領の内容を見据えた学校の魅力化研究

「地域共創コース」でのカリキュラム開発研究を検証しつつ、単位制普通科高校に移行する2021年度入学生の教育課程を開発する。併せて2022年度入学生の学習指導要領に基づく、文理融合型のモデルを研究する。

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
国立大学法人島根大学	島根大学学長 服部 泰直
松江市	松江市長 松浦 正敬

松江商工会議所	会頭 古瀬 誠
島根県中小企業家同友会	代表理事 小田 隆弘
島根県立松江東高等学校関係団体 松江東高校 PTA 松江東高校東雲会（同窓会） 松江東高校嵩の嶺会（松江東高 P T A の O B の会）	会長 福田 英樹 会長 物部 伸吾 理事長 宮脇 健
島根県立松江東高等学校	校長 野々村 卓
島根県教育委員会	教育長 新田 英夫

（２）将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

島根県はこれまで地域と連携・協働しながら「教育の魅力化」に取り組んできた。島根県が目指す「教育の魅力化」とは島根の子どもたち一人一人に自らの人生と地域や社会の未来を切り拓くために必要となる「生きる力」を育むため、学校と地域社会がその目標を共有し、協働を図りながら、島根の教育をよりよいものに高めていくことである。そのためにも、島根県が策定した「県立高校魅力化ビジョン」では、全ての高校において、地域と協働しながら「目指す学校像」、「育てたい生徒像」等の明確化を図るよう求めている。

このため、松江東高等学校においてはこれらのビジョン等を「松江東高校魅力化コンソーシアム」の役員予定メンバーの参画による準備会での熟議を経て以下のように策定した。

- | |
|--|
| ① 「中核市のスケールをフィールドとした学びや経験を活かして、持続可能な地域社会を考えながら、地域社会の未来に向けて挑戦する人」 |
| ② 「地域のなかで生成された多様な価値〈ひと・しごと・こと（歴史・文化・自然）〉を探究するなかで、知的好奇心を高め、新たな価値を協働して創造しながら、自己実現を図る人」 |

松江東高等学校ではこれを「地域共創人」と定義している。「地域共創人」という持続可能な社会を創造する実践者として、地域とともに地域の未来を共に創っていこうとする人材を育成することが松江東高等学校の使命であると位置づけている。

コンソーシアム役員による熟議でのビジョン等の共有が、コンソーシアム全体の当事者意識の高まりにもつながるものと考えられる。

（３）コンソーシアムにおける研究開発体制

2019年10月に発足予定の「松江東高校魅力化コンソーシアム」が本事業構想を運営する。コンソーシアムの構成組織は松江東高等学校を中心に、管理機関である島根県教育委員会、松江市、島根大学、松江商工会議所、島根県中小企業家同友会、松江東高等学校同窓会、嵩の嶺会、松江東高等学校 P T A 等であり、すでに数回にわたる準備会において役員予定の参加者による熟議の場を経ている。本コンソーシアムの役員会が意思決定の場となり事業を運営する。

本コンソーシアム内に「研究開発ワーキンググループ」を設置し、定期的なミーティングを行い、より具体的な協働活動の企画等について適宜提言を行う。「研究開発ワーキンググループ」は「カリキュラム開発等専門家」2名、「地域協働学習支援員」2名を中心に必要に応じてコンソーシアムの役員会メンバー等が参画する。

本コンソーシアムの事務局として、事業のファシリテートや研究開発に係る業務を、校内に新設する「魅力化推進部」が担う。「魅力化推進部」は松江東高等学校教員6名及び司書教諭1名、県が配置する「コンソーシアムマネージャー」1名を加えた8名体制の組織として、本事業を推進する。

管理機関の島根県教育委員会は本コンソーシアムに参画し、コンソーシアム運営に係る必要な支援を行う。

（４）カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

氏名	所属・役職
----	-------

高須 佳奈	島根大学 地域未来協創本部 講師
熊丸 真太郎	島根大学教職大学院 准教授

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

氏名	所属・役職
中村 怜詞	島根大学教職大学院 准教授
千代西尾 祐司	島根大学教職大学院 教授

(6) 運営指導委員会の体制

氏名	所属・役職等
能海 広明	松江市 副市長
森 朋子	関西大学教育推進部 教育開発支援センター 教授
大島 正也	(有) お茶の三幸園 代表取締役
上田 泰子	(株) アテナ 主席研究員
岩本 悠	地域・教育魅力化プラットフォーム共同代表

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

①研究成果報告

- i) 本事業での成果の普及・啓発
年度末に「研究発表会」を実施する。
- ii) 島根県事業「高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業」による普及と啓発及びパイロットモデルとしてマニュアル作成
島根県の事業である「高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業」に松江東高等学校が指定されている。本県事業によりコンソーシアムの設計・設立運営に関わる取組について合同研修会を実施し、成果の拡散を行うほか、活動ノウハウを抽出してマニュアルとしてまとめ研修会等に活用し、取組の普及と啓発を図る。
- iii) 松江市とタイアップした「中核市高校魅力化シンポジウム」の開催
松江市とタイアップした「中核市高校魅力化シンポジウム」を開催し、都市部における、地域と高校との協働による地域人材育成の方法等について成果を発表すると共に、他地域の同様の都市型の高校の魅力化に取り組む地域との活動の交流を図る。

②事業成果の検証

成果目標、成果指標を定め、本コンソーシアム内において、校内データを収集・分析し、得られたデータを検証することで、必要に応じて適宜計画・方法の改善を図る。

また、運営指導委員会を年2回開催し、取組の状況と成果目標についてその都度確認を行い、事業の成果についての検証を行う。

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

①管理機関による主体的な取組

本県はこれまで地域と連携・協働しながら「教育の魅力化」に取り組んできた。その成果を踏まえ、「県立高校魅力化ビジョン」において、市町村や地元企業、大学などの多様な主体が参画し、魅力ある高校づくりに取り組む協働体制（以下「高校魅力化コンソーシアム」）を全ての高校において構築することとしている。この高校魅力化コンソーシアムの展開を通じ全県で、自らの人生と地域や社会の未来を切り拓く「地域人材」の育成を目指すこととしている。

この高校魅力化コンソーシアムの効果的な全県整備を図るため、先導モデルを構築し、ノウハウを全県に普及するための「高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業」を実施する。これは高校魅力化コンソーシアムの設計・設立・運營業務支援及び、モデルの普及のための活動ノウハウの抽出や成果の取りまとめ等を行うことを目的とし、これらの業務を担う「コンソーシアムマネージ

ヤー」を、指定する高校に配置する事業である。2019年度に、この「コンソーシアムマネージャー」を松江東高等学校に配置し、支援すると共に、全高校を対象とした合同研修会で成果を拡散することとしている。

さらに、松江東高等学校の魅力化を支援する担当職員を「伴走者」として配置し、コンソーシアムの設置や運営にあたり県側の窓口となり、県の有する権限・予算・施策や人的リソースの活用が有効である場合は、担当部署等につなぎ、課題解決に貢献することとしている。

さらに、県事業である「教育魅力化推進事業」により県立高校と地域が一体となって取り組む高校魅力化を支援し、その取組の成果を評価するシステムの開発を行う。併せて同様に県事業である「明日のしまねを担うキャリア教育推進事業」及び「普通科高校における資質・能力育成支援事業」により必要な資質や能力の育成を図り、取組を支援する。

②コンソーシアムによる主体的な取組

松江市とタイアップした「中核市高校魅力化シンポジウム」を開催し、都市型の地域と高校との協働による地域人材育成の方法等について成果を発表すると共に、他地域の同様の都市型の高校の魅力化に取り組む地域との取組の交流を進め、地域との協働による高校教育についての啓発と普及を図る。

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

① 全県へのコンソーシアムの展開

先に述べたように本県においては魅力ある高校づくりに取り組む「高校魅力化コンソーシアム」を全ての高校において構築することとしている。

「松江東高校魅力化コンソーシアム」は都市部におけるその先導的な取組としてのロールモデルとなり、他の地域を牽引しつつ、島根県で推進する「高校魅力化コンソーシアム」としてさらに充実した協働活動等を展開することとなる。島根県においてはこれら「高校魅力化コンソーシアム」の展開を支援するための予算措置等について、今後の継続した対応も検討している。

さらに、現在進行している島根大学と島根県教育委員会との協定に基づき、高大連携の取組の中で島根大学と連携した協働活動も継続していく見込みである。

② 島根県における「しまね地域人材エコロジーシステム（仮称）」の展開

本県では、島根の次代の「人づくり」と「人の環流づくり」を目指し、「しまね地域人材エコロジーシステム（仮称）」を検討中である。地域課題解決型学習を切り口に、世代（高校生／大学生／社会人等）と地域（県内／県外）を超えて、人材育成・確保の仕組みの構築を目指す。このシステムの一翼を担うものが本コンソーシアムの目指す「地域人材」の育成であり、システムの推進に併せ「松江東高校魅力化コンソーシアム」のさらなる進展を図る。

③ 持続可能な学校魅力化事業研究の実施

本事業終了後も、カリキュラム開発専門家や地域協働学習実施支援員の配置による「地域共創コース」等の取組が持続できるよう、卒業生会等のネットワークを活かしたクラウドファンディングの構築にむけた研究を進め、一定のコンソーシアム独自の財政基盤を確保し事業継続に資する。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	しまねけんりつまつえひがしこうとうがっこう				②所在都道府県	島根県
2019～2021	①学校名	島根県立松江東高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	1年5クラス	2年6クラス
普通科	185	226	220		631	3年6クラス	
⑥研究開発構想名	中核市発 持続可能な社会を創造する「地域共創人」の育成						
⑦研究開発の概要	<p>大学や地域の企業等との連携強化に取り組みながら、地域の未来を共に創っていく「地域共創人」を育成する。確かなしまね（まつえ）マインドを持たせることで松江地域の、人材の定着、人材の環流につなげる。高校魅力化の先進県である島根県が培ってきたノウハウを活かし、全国の中核市のモデルケースとなることを目指す。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本校が核となる「松江東高校魅力化コンソーシアム」が目指す地域人材像は、「中核市のスケールをフィールドとした学びや経験を活かして、持続可能な地域社会を考えながら、地域社会の未来に向けて挑戦する人」であり、同時に「地域のなかで生成された多様な価値<ひと・しごと・こと（歴史・文化・自然）>を探究するなかで、知的好奇心を高め、新たな価値を協働して創造しながら、自己実現を図る人」である。これを「地域共創人」と定義した本校は、次の6点を目標に、それに必要な力と位置づけている「主体的学習者としての力」、「探究的学習力」、「社会的自立力(キャリア形成力)」、「地域共創力(価値創造力)」、「多文化協働力」を身につける教育環境を3年間で構築する。</p>					
		<p>1 卒業時に、入学時と比べて、地域への興味関心や愛着を持つ生徒が増加するとともに、実際の地域課題を自ら設定して取り組む生徒が増え、実際に課題が解決された事例や解決策の事例が複数存在する。</p> <p>2 卒業時に、入学時と比べて、自分や地域社会の未来のビジョンを具体的に創造し、それを周囲に伝達できる生徒が増加する。</p> <p>3 事業終了時に、高大連携をすすめている島根大学との協働の機会が増大し、あわせて入学希望者も増加する。</p> <p>4 事業終了時に、島根大学以外の共創する人々との協働の機会が増大し、あわせて卒業時の地元就職率・進学率が増加する。</p> <p>5 事業終了時に持続可能な事業モデルとして、校内・地域に浸透し、事業が継続される。</p> <p>6 事業終了時に魅力的な事業モデルとして紹介され、中核市をはじめとした中規模都市に事例が導入される。</p>					
		<p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は、島根県教育委員会の教育課程実践モデル事業の指定を受け、2年間授業改善等を進めてきた。しかし、①主体的・対話的で深い学びが未だ不足している。②総合的な学習の時間の活動が調べ学習にとどまっている面がある。③地域社会との関わりが少ない。④体系的なキャリア教育が実施されていない。⑤Society5.0の到来を意識した学習が不足している。といった点にまだ課題が残っている。一方、人口減少問題</p>					

	<p>を抱える島根県（松江市）では、地域の将来を担う人材の育成は重要な課題となっており、教育に寄せられる期待はとても大きい。本校が抱える課題や地域が抱える課題を克服するためには、地域課題解決等の探究的な学びを行う等、社会に開かれた教育課程の編成が不可欠である。地方都市であるものの、社会という生態系を構成する要素が過不足なくバランスよく存在するスケールメリットがある松江市をフィールドとした探究的な学びを進めていくことは、「地域共創人」育成の核となる取組である。そこで、「松江東高校魅力化コンソーシアム」を構築し、カリキュラム開発等専門家と地域協働学習実施支援員の協力を得て、次の6つの研究開発を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> I 「地域共創人」を育成する3年間の体系的なカリキュラム研究（地域共創人育成 Project） II 文理融合型の教育を目指す2年次からの「地域共創コース」のカリキュラム研究 III 県指定で2年間実施した教育課程実践モデル事業の継承による主体的学習者育成研究 IV 教育を核とした多文化協働・地域共創研究 V 持続可能な学校魅力化事業研究 VI 単位制普通高校移行や新学習指導要領の内容を見据えた学校の魅力化研究 </div>
<p>⑧-2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画 総合的な探究の時間での『「地域共創人」を育成する3年間の体系的なカリキュラム(地域共創人育成 Project)』を開発する。1年次には「地域に関心を持つ、地域の価値を知る」、2年次には「地域とつながり探究する、地域とともに挑戦する」、3年次には「地域の中から新しい価値を創造する」をテーマに掲げて実施する。成果発表等を通して、保護者や地域の関係機関の意識改革を目指す。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制 本事業構想の企画・運営を行う「研究開発ワーキンググループ」と校内組織として新設する「魅力化推進部」とカリキュラム開発等専門家2名（高須佳奈氏、熊丸真太郎氏）、地域協働学習実施支援員2名（中村怜詞氏、千代西尾祐司氏）を中心にカリキュラム・マネジメントを推進する。「魅力化推進部」は、教員6名、司書教諭1名、コンソーシアムマネージャー1名（島根県教育委員会の「高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業」）で構成する。また、主幹教諭を魅力化担当とし、校内外の連携を円滑に進める。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>2017年度から2018年度にかけて島根県教育委員会から「教育課程実践モデル事業」の指定を受けた。大学教授等で構成された運営指導委員会の指導・助言を活かしながら、2年間、授業、評価、カリキュラム設計の改善に取り組んだ成果として、全教員がアクティブ・ラーニング型の授業に取り組むような風土が醸成されるとともに、学習成績評価の改善、授業評価アンケートの改善、教育課程の改善等が実現した。</p>